

| | | |
|--|----|----------------|
| | 公表 | 事業所における自己評価総括表 |
|--|----|----------------|

| | | | |
|----------------|---------------------|-----------|--------------|
| ○事業所名 | after school willbe | | |
| ○保護者評価実施期間 | 2025年 7月 1日 | | 2025年 7月 29日 |
| ○保護者評価有効回答数 | (対象者数) | 23名(19家庭) | (回答者数) 16名 |
| ○従業者評価実施期間 | 2025年 7月 1日 | | 2025年 7月 29日 |
| ○従業者評価有効回答数 | (対象者数) | 19名 | (回答者数) 15名 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 2025年 8月 1日 | | |

○ 分析結果

| | 事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|---|---|---|
| 1 | 環境・安全体制 | <ul style="list-style-type: none"> ・活動ごとに学習/静養/運動のゾーニングを行い、十分なスペースと見通しを確保。 ・毎日の清掃・換気・照度/騒音チェック、危険箇所の即時共有、マニュアル/BCPIに基づく訓練を定期実施。 ・個別のクールダウンスペースを常設し、必要に応じてパーティション等で環境調整。 | <ul style="list-style-type: none"> ・掲示、備品の定期棚卸(四半期ごと)と掲示ガイドライン運用で視覚的ノイズを抑制。 ・「適温管理表」の掲示と季節別チェックリスト(空調/湿度/臭気)を運用。 ・混雑時間帯の動線最適化(面積密度モニタリング、預かり場所の一時分散)。 |
| 2 | 個別支援の質・可視化 | <ul style="list-style-type: none"> ・半期ごとのモニタリングと日々の観察記録、朝夕会での役割共有により、計画→実施→振り返りを徹底。 ・活動は固定化を避け、季節や興味を反映して週単位で更新。自己選択/自己決定を促す提示を実施。 ・計画は全員が閲覧できる形で管理し、保護者には計画を示しながら説明・同意取得。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「計画の見える化」強化(計画概要カードの配布、面談での到達度メーター提示)。 ・標準化アセスメントツールの活用者拡大(OJTとミニ研修で苦手意識の解消)。 ・「移行支援」項目の周知・説明資料を整備(利用最終年度の年間ロードマップ配布)。 |
| 3 | 保護者連携・情報発信と地域連携 | <ul style="list-style-type: none"> ・送迎時/連絡帳/LINEで双方向の情報共有を丁寧に実施。相談・申出には迅速に対応し経過を共有。 ・通信/SNS/保護者会、家族向けプログラム(PT/交流企画)を継続開催。苦情対応体制・個人情報管理を徹底。 | <ul style="list-style-type: none"> ・放課後児童クラブ/地域イベント等の交流実績を「実施報告」として可視化(掲示・通信で定期発信)。 ・きょうだい児配慮の運営ガイドを整備し、イベント設計に反映。 ・学校・医療等の連携先を拡充(年間連携台帳の作成と更新サイクル化)。 |

| | 事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|---|---|---|
| 1 | 会議参加・研修機会の偏り/情報共有のムラ | <ul style="list-style-type: none"> ・短時間勤務者の時間的制約で会議/研修に参加しにくい。要点共有が口頭中心で受け取りに差。 ・一部職員にアセスメントや相談対応への苦手意識。 | <ul style="list-style-type: none"> ・全体会議の「5分要約(動画/スライド)」を72時間以内に配信、既読/視聴ログを管理。 ・マイクロ研修(月1本/10分)を勤務帯別に実施。 ・アセスメントOJT(観察→記録→フィードバックの三段階)を新人必修化。参加率KPI(90%)を設定。 |
| 2 | 外部連携情報の記録化が不十分(口頭依存) | <ul style="list-style-type: none"> ・就学前機関/卒後移行先/学校等との情報共有が、保護者口頭や送迎時会話に依存しやすい。 ・統一様式と共有タイミングが未整備。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「移行サマリー」「就学前引継ぎシート」「学校連絡ログ」標準様式を作成し、年度マイルストーン(例:卒業前年の4・10月)で回収/更新。 ・保護者同意の定型フロー化(同意書+提供記録)。 |
| 3 | 環境面の細部最適化と健康・リスク情報の事前周知 | <ul style="list-style-type: none"> ・掲示物の劣化/過多、繁忙時間帯の体感狭さ、空調の効き過ぎ等の細かな快適性課題。 ・新人職員で服薬/アレルギー等の事前把握が当日直前になるケースが散見。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「掲示物はA3以内・期限付き・責任者明記」ルールで更新日を管理、季節替え断捨離デー(四半期)。 ・適温管理表と温湿度ルール運用、混雑時間帯の配置換え(動線の見直し)。 ・健康情報の二重チェック(当日確認リスト)と、出勤前に個別ファイルを開覧する“準備時間スロット”をシフトに内包。 |

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

| 事業所名 | after school willbe | | 公表日 | | 2025/8/2 | | 利用児童数 | | 23名 (19家庭) | | 回収数 | | 16名 | |
|----------|--|---|-----|-------|----------|---|---|--|------------|--|-----|--|-----|--|
| チェック項目 | はい | どちらとも いえない | いいえ | わからない | ご意見 | ご意見を踏まえた対応 | | | | | | | | |
| 環境・体制整備 | 1 | こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。 | 16 | | | 「広くてゆったりできる」 | ご評価いただきありがとうございます。今後も十分なスペースを確保し、安心して過ごせる環境づくりに努めてまいります。 | | | | | | | |
| | 2 | 職員の配置数は適切であると思いますか。 | 16 | | | | 適切な職員配置を維持し、子どもたちが安心して過ごせるよう努めてまいります。 | | | | | | | |
| | 3 | 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。 | 16 | | | 「月ごとにおもちゃを決めることで選択もしやすく活動にも集中できてよいと思う」 | 働きかけにご理解いただきありがとうございます。今後も季節や支援内容に応じた遊具選定を行い、集中力や主体性を育めるよう支援します。 | | | | | | | |
| | 4 | 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。 | 16 | | | | 清潔で快適な空間づくりを維持しつつ、活動内容に応じた環境設定と安全性に引き続き配慮してまいります。 | | | | | | | |
| 適切な支援の提供 | 5 | こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。 | 16 | | | | 子どもの特性を理解したうえで、専門性のある支援を提供できるよう、引き続き職員間の連携とスキルアップに努めます。 | | | | | | | |
| | 6 | 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。 | 16 | | | | 支援プログラム内容と実際の支援が一致するよう、定期的な見直しと保護者への明確な説明を行っています。 | | | | | | | |
| | 7 | こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。 | 15 | 1 | | 「モニタリングをしっかりとってくれる」 | モニタリングを通じて得た情報をもとに、より個別性を重視した支援計画の作成に努めています。一部「どちらともいえない」のご意見も踏まえ、今後は保護者への説明や計画内容の見える化をさらに丁寧に行い、支援の納得感や連携の質を高めてまいります。 | | | | | | | |
| | 8 | 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。 | 15 | 1 | | 「移行支援」の部分「どちらともいえない」 | 今後、「移行支援」の内容について保護者の皆さまにもわかりやすく説明を行い、理解促進と必要性の周知に努めてまいります。 | | | | | | | |
| | 9 | 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。 | 16 | | | | 計画に沿った支援が継続できているかを定期的に確認し、内容と質の向上に取り組み続けます。 | | | | | | | |
| | 10 | 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。 | 16 | | | | 活動が固定化しないよう、季節や子どもの興味を反映した多様なプログラムを工夫しながら実施してまいります。 | | | | | | | |
| | 11 | 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。 | 15 | | | 1 | 地域の子どもたちとの交流機会は、主に地域イベント参加や主催などを通じて実施してまいりました。今後もこうした活動内容や実施報告について、より分かりやすく・見える形でお伝えできるよう、掲示や通信等での発信を工夫してまいります。 | | | | | | | |
| 保護者への説明等 | 12 | 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。 | 16 | | | | 初回利用時の説明責任を果たし、理解が深まるよう丁寧な説明を継続してまいります。 | | | | | | | |
| | 13 | 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。 | 16 | | | | 支援内容と計画を結びつけたわかりやすい説明を心がけ、保護者が安心して利用できる環境を整えてまいります。 | | | | | | | |
| | 14 | 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。 | 16 | | | 「良かった」「保護者同士の共通点ピンポイントで良かった、イベントも子どもがすごく喜んでた」 | ご参加ありがとうございます。今後も保護者同士の交流やお子さまが楽しめるイベント企画を積極的に継続してまいります。 | | | | | | | |
| | 15 | 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状態について共通理解ができていると思いますか。 | 16 | | | 「ギリギリの変更などにもすぐに対応してくれる」「送迎のときに様子を聞かせてもらったり家でのことも伝えられるので共有できていると感じる」 | 日々のやりとりの中で、双方向の情報共有を丁寧に行う体制を今後更に大切にしてまいります。 | | | | | | | |
| | 16 | 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。 | 16 | | | | 面談等を通して、子育てに関する助言や悩みの相談にも寄り添える体制を継続してまいります。 | | | | | | | |
| | 17 | 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。 | 15 | 1 | | 「どの先生もとても丁寧です」「話しやすい対応してくれるので助かる。子供への対応もスタッフ各々が共有してもらえるので信頼できる」 | 温かいご意見をいただきありがとうございます。一方で「どちらともいえない」とのお声もあり、今後はご家庭との関係性づくりにも丁寧に取り組み、保護者の皆さまに | | | | | | | |
| 18 | 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。 | 16 | | | | 保護者会やイベントを通じた保護者・きょうだい児への支援についても継続的に取り組んでまいります。 | | | | | | | | |

| | | | | | | | |
|---------|----|--|----|--|--|---|--|
| | 19 | 子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。 | 16 | | | 「かんしゃくを起こした時も、家での対応を聞いてくれて、医師の助言を伝えると情報を共有してもらったのでありがたかった」 | 温かいご意見をいただきありがとうございます。 ご家庭や医療機関との連携を通じて、お子さまの特性に応じた支援がより適切に行えたことを嬉しく思います。今後も、ご相談いただきやすい体制と丁寧な情報共有を大切に、安心してご利用いただけるよう努めてまいります。 |
| | 20 | 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。 | 16 | | | | 意思疎通を円滑にするための情報伝達や配慮を意識し、今後も細やかな対応を心がけます。 |
| | 21 | 定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。 | 16 | | | | 通信・SNS等を活用し、定期的に活動内容や評価結果等の情報を発信してまいります。 |
| | 22 | 個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。 | 16 | | | | 個人情報保護についてのルール遵守と職員への周知徹底を継続し、安心できる情報管理を行います。 |
| 非常時等の対応 | 23 | 事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、初動マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。 | 16 | | | | 各種マニュアルの整備・更新とともに、保護者への説明・周知を行い、安心安全の体制を維持してまいります。 |
| | 24 | 事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。 | 16 | | | | 避難・救出訓練を年2回以上実施し、非常災害時に備えた体制の強化に努めてまいります。 |
| | 25 | 事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。 | 16 | | | | 事故や災害等のリスクを想定した安全確保計画をもとに、日常の支援の中でも安全に配慮して取り組みます。 |
| | 26 | 事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。 | 16 | | | | 事故等が発生した場合には、迅速な連絡・説明・記録対応を徹底し、信頼の維持に努めております。 |
| 満足度 | 27 | 子どもは安心感をもって通所していますか。 | 16 | | | | お子さまが安心して通えるよう、信頼関係の構築と安定した環境整備に努めてまいります。 |
| | 28 | 子どもは通所を楽しみにしていますか。 | 16 | | | 「とても楽しく通っています！」「正直に言うと上記の内容は"よい"と思っているだけで、子どもが楽しみにしているということが一番良いと思っています。」 | 子どもが「楽しく通っている」「行きたくなる」と感じてもらえることが、何よりの支援の成果であるという温かいご意見に、心より感謝申し上げます。 今後も、子どもたちが自分らしく安心して過ごせる時間を大切に、楽しみながら育ちを支えられる環境づくりに努めてまいります。 |
| | 29 | 事業所の支援に満足していますか。 | 16 | | | 「楽しんで通ってます！ありがとうございます」「いつもありがとうございます」 | 嬉しいお言葉を励みに、これからも感謝を忘れず、丁寧で信頼される支援を提供してまいります。 |

公表 事業所における自己評価結果

| 事業所名 | | after school willbe | | 公表日 | | 2025年 8月 2日 | |
|---------|----|--|-------|------|---|--|--|
| | | チェック項目 | はい | いいえ | 工夫している点 | 課題や改善すべき点 | |
| 環境・体制整備 | 1 | 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。 | 100% | | 活動ごとに空間を分け、子どもが安心して移動・活動できる構造を確保。 学習、静養、運動スペースを明確に分け、圧迫感のない環境づくり。 ゆったり過ごせる広さを保ち、定員に応じた十分なスペースを確保。 | 人数が多い時間帯はややく感じる場合あり。 物が増えると動きづらくなるため、常に整理整頓を意識。 | |
| | 2 | 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。 | 100% | | 利用状況や時間帯に応じた適切な人員配置。 加配が必要な時間帯や曜日把握し、シフトに反映。 常に誰かがそばで見守る体制を確保。 忙しい時間帯でも人手不足にならないよう職員同士で調整。 | 短時間勤務の職員は会議や配置計画への参加機会が少なく、理解を深める機会が必要。 | |
| | 3 | 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。 | 100% | | 色分けやマークによるゾーニングで動線をわかりやすくし、見通しを持たせる。 安全な玄関・送迎動線を確保。 素材や色彩で落ち着ける空間づくり。 | 掲示物が増えたとごちゃつくため整理が必要。 一部掲示物の劣化（色落ち）があり、張り替えを検討中。 視覚以外（音等）の案内方法も検討余地あり。 | |
| | 4 | 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。 | 100% | | 毎日の清掃ルーティンと換気、臭いや照明チェックの徹底。 清掃担当を分担し、玄関・駐車場周辺も安全面から整備。 使用した物の片付けも子どもと一緒に実施。 | 子どもの使った物の片付け声かけを強化。 空調の効きすぎで寒がる児童がいるため、適温管理表の設置を検討。 | |
| | 5 | 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。 | 100% | | 静かに過ごせるクールダウンスペースや相談室を確保。 必要に応じてパーテーションやテント等も活用。 児童の自覚がない場合も職員から声かけて促す工夫。 | 慣れない子どもには繰り返し場所の説明を行う必要あり。 | |
| 業務改善 | 6 | 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。 | 100% | | 月1回の全体会議や朝会で目標設定・振り返りを実施。 会議に参加できない職員にも内容を共有。 他職員の考え方を共有し学びにつなげている。 | 短時間勤務者や会議不参加者が意見を出しにくい傾向。 | |
| | 7 | 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。 | 100% | | 年1回実施し、結果を職員間で共有。 改善点を反映した活動や掲示を行う。 LINE等で意見収集も実施。 | 特になし（現状の活用で良好）。 | |
| | 8 | 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。 | 93.3% | 6.7% | 日常的に報道相しやすい雰囲気。 意見箱やチーム会議でのヒアリングを実施。 個別聞き取りも併用。 | 一部職員は遠慮して意見を出さない傾向がある。 | |
| | 9 | 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。 | 100% | | 3年に1回の第三者評価後に全体共有し、改善策を協議。 外部視点の意見を現場に反映。 | 中間年の自己点検も検討。 | |
| | 10 | 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。 | 100% | | 法人内研修や外部研修、動画・資料配布で勤務時間外でも学べる環境。 資格取得支援制度を設け、個別学習の機会も提供。 出勤日数の少ない職員にも補講や資料配布で学びの機会を確保。 | 一部職員は研修機会を十分に活用できていない。 | |
| 適切な支援 | 11 | 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。 | 100% | | ホワイトボードや掲示で日々の活動を見える化。 ホームページや保護者会で説明・配布。 誰でも事前に確認できる体制。 | 特になし（現状の活用で良好）。 | |
| | 12 | 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。 | 100% | | 初回面談と複数回観察で多角的に評価。 複数職員で確認し、偏りを防止。 会議で共有し支援に反映。 | 一部職員にアセスメントへの苦手意識があり、スキル強化が必要。 | |
| | 13 | 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。 | 100% | | チームで検討し、会議不参加者にも出勤時共有。 担当エリア制で理解を深めやすく、保護者も安心できる仕組み。 | 担当エリア間での情報共有スピード向上が課題。 | |
| | 14 | 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。 | 100% | | 計画は全員が閲覧できる場所に管理。 朝会で当日の支援方法を確認。 | 特になし（今後、新人職員が増えた場合にも継続）。 | |
| | 15 | こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。 | 100% | | 日々の観察記録で変化に気づきやすい体制。 標準ツールに頼らず観察と記録を重視。 | 専門ツールの活用機会は一部職員で限定的。 | |
| | 16 | 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。 | 100% | | 本人・家族・地域の3視点を取り入れた計画。 ガイドラインに沿い、偏りのない構成。 | 特になし（現状の活用で良好）。 | |
| | 17 | 活動プログラムの立案をチームで行っているか。 | 100% | | 職員全員で相談し、児童や職員からの提案も反映。 チーム会議で月1回内容を検討・決定。 | 特になし（現状の活用で良好）。 | |

| | | | | | | |
|--|----|--|------|--|--|--|
| 援 の 提 供 | 18 | 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。 | 100% | | 季節感や子どもの興味に合わせて週ごとのテーマを設定。 リクエスト制度で子ども・職員の意見を反映。 | 特になし（現状の活用で良好）。 |
| | 19 | こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ て放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。 | 100% | | 子どもの特性に応じ柔軟に組み合わせ。 集団が苦手な子には個別活動を多めに設定。 | 特になし（現状の活用で良好）。 |
| | 20 | 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支 援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を 行っているか。 | 100% | | 毎朝5分の朝礼で流れ・役割・安全確認を共有。 出勤順に引き継ぎ。 | 特になし（現状の活用で良好）。 |
| | 21 | 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた 支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。 | 100% | | 終礼や記録確認で良かった点・改善点を共有。 全員で振り返りを行い次回支援に活かす。 | 最後まで残れない職員には情報伝達の工夫が必要。 |
| | 22 | 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改 善につなげているか。 | 100% | | リアルタイム入力と終業前確認で漏れ防止。 丁寧に記載し見返ししやすい形式を維持。 | 特になし（現状の活用で良好）。 |
| | 23 | 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見 直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。 | 100% | | 半年ごとに実施し、必要に応じて短縮や調整。 会議で共有し支援の見直しに反映。 | 一部職員はモニタリングへの関与が少ない。 |
| | 24 | 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複 数組み合わせる支援を行っているか。 | 100% | | 生活訓練・創作活動・社会交流・運動などを日々組 み合わせ。 苦手な活動も無理なく参加できる工夫。 | 特になし（現状の活用で良好）。 |
| | 25 | こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自 己決定をする力を育てるための支援を行っているか。 | 100% | | 複数の選択肢を提示し自分で決める経験を促す。 成功体験につながるよう配慮。 | 選択肢が多すぎると時間がかかる場合がある。 |
| 関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携 | 26 | 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会 議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。 | 100% | | 担当職員が同席し、具体的な様子を伝達。 会議不参加者からも事前に情報収集。 | 特になし（現状を維持）。 |
| | 27 | 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保 育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えている か。 | 100% | | 医療・学校・福祉との情報共有体制。 連携会議を設け共通理解を図る。 | さらに連携先を拡充する余地あり。 |
| | 28 | 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下 校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時 の連絡）を適切に行っているか。 | 100% | | 送迎時に担任と日々情報交換。 変化があれば即時共有。 | さらに連携を拡充する余地あり。 |
| | 29 | 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発 達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。 | 100% | | 保護者経由で過去の支援記録を確認し計画に反映。 共有は口頭と書面の両方で実施。 | 口頭情報の比率が高く、記録化の強化余地あり。 |
| | 30 | 学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事 業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供す る等しているか。 | 100% | | 卒業1年前から関係機関と連携開始。 必要書類の作成と保護者同意の上で情報提供。 | 口頭情報の比率が高く、記録化の強化余地あり。 |
| | 31 | 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じて スーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。 | 100% | | 必要時に専門機関や地域資源へ事前相談し助言を受 ける体制。 福祉・教育・医療を横断した連携を意識。 | 関わる機会の少ない職員は連携経験を増やす必要あり。 |
| | 32 | 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活 動する機会があるか。 | 100% | | 地域イベントや他事業所との交流を実施。 主催イベントで地域の子どもや住民と関われる場を 創出。 | 地域活動が少ない場合は自ら企画・開催する必要が ある。 |
| | 33 | （自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。 | 100% | | 協議会や関連行事への参加を通じて情報収集・共有。 行事内容は職員間で共有し、地域との連携意識を高 める。 | 一部職員は参加経験がなく、参加機会を増やす必要 あり。 |
| | 34 | 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状 況や課題について共通理解を持っているか。 | 100% | | 送迎時や連絡帳でこまめに情報共有。 丁寧な言葉遣いと笑顔を意識。 | 自信のない職員は対応経験や知識を増やす必要があ る。 |
| | 35 | 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プ ログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる 研修の機会や情報提供等を行っているか。 | 100% | | 保護者会やイベントを通じ家庭での困りごとをヒア リング。 ペアレントトレーニングや資料提供なども実施。 | 間接的関与の職員は支援内容を理解し、自分の役割 を明確化する必要あり。 |
| | 36 | 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明 を行っているか。 | 100% | | 入所時に十分な時間を取り、丁寧に説明と質疑応答 を実施。 パンフレットや資料を活用しわかりやすく伝達。 | 特になし（現状を維持）。 |
| | 37 | 放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者 の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえ て、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。 | 100% | | 計画作成前に丁寧なヒアリングを実施。 希望だけでなく困りごとにも着目し計画に反映。 | 特になし（現状を維持）。 |
| | 38 | 「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を 行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ている か。 | 100% | | 計画書を口頭説明＋書面提示し同意署名を得る。 例を交えてわかりやすく説明。 | 特になし（現状を維持）。 |
| | 39 | 家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談 や必要な助言と支援を行っているか。 | 100% | | 傾聴を重視し、必要時は専門機関や上司へつなぐ。 面談やLINE等複数手段で対応。 | 一部職員は直接対応経験が少なく、対応スキル向上 が必要。 |

| | | | | | | |
|----------|--|--|-------|--|--|---|
| 保護者への説明等 | 40 | 父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。 | 100% | | 定期開催で交流を促進し、兄弟児にも配慮。ゲームやイベント形式で話しやすい雰囲気づくり。 | 多人数の兄弟児対応における配慮方法は課題。 |
| | 41 | 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。 | 100% | | 苦情窓口・対応マニュアルを整備し全職員に周知。初動・記録・報告の流れが明確。 | 実際の対応経験がない職員へのロールプレイ等が有効。 |
| | 42 | 定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。 | 100% | | LINE・お便り・SNS等複数媒体で発信。内容に応じて発信方法を使い分け。 | 特になし（現状の活用で良好）。 |
| | 43 | 個人情報の取扱いに十分留意しているか。 | 100% | | 鍵付き保管・黒ファイル使用・定期研修で徹底。共有は必要最小限に限定。 | 特になし（更に強化を目指す）。 |
| | 44 | 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。 | 100% | | 絵カード・写真・ジェスチャーなど多様な支援ツールを活用。特性に合わせた話し方・声のトーンを工夫。 | ツール多用による混乱を避け、必要な子に適切な方法を選択。 |
| | 45 | 事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。 | 100% | | 夏祭りやオープンデーなどの行事で交流機会を提供。子どもが自然に地域に溶け込める雰囲気づくり。 | 地域行事が少ない場合の自主企画を継続。 |
| 非常時等の対応 | 46 | 事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。 | 100% | | 紙・データ両方でマニュアル管理し、訓練時に確認。感染症や災害に備えた研修・訓練を定期実施。 | 普段からマニュアルに触れる機会を増やす。 |
| | 47 | 業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。 | 100% | | 季節ごとにBCPに基づき災害・感染訓練を実施。役割を確認しながら真剣に取り組む。 | 訓練以外でも平時から手順確認の習慣化が必要。 |
| | 48 | 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。 | 93.3% | 6.7% | 支援前に健康情報を確認し共有。面談時に詳細情報を記録に反映。 | 一部職員には、支援前確認となってしまうため新人職員への事前に児童のファイルを開覧するなどの時間を確保する。 |
| | 49 | 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。 | 100% | | 成分確認を二重チェック。アレルギー成分は取り扱わない方針を徹底。 | 特になし（今後、アレルギーの該当児童が増えた場合に備え一覧表を検討）。 |
| | 50 | 安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。 | 100% | | 安全計画に基づき定期研修・訓練を実施。危険箇所やリスクを小さなことでも即共有。 | 特になし（現状の活用で良好）。 |
| | 51 | 子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。 | 100% | | 保護者説明会や資料配布で事前周知。避難場所や緊急連絡網の説明も実施。 | 特になし（現状の活用で良好）。 |
| | 52 | ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。 | 100% | | 「気づいたらすぐ言う」を徹底。月1回の会議でまとめて共有・再発防止策を検討。 | 特になし（現状を維持）。 |
| | 53 | 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。 | 100% | | 年2回研修を実施し具体的事例を共有。見て見ぬふりをしない姿勢を全員で確認。 | 啓発ポスター等の劣化更新が必要。 |
| 54 | どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。 | 100% | | 基準を明文化し説明・同意・記録の三点を徹底。必要時以外は絶対に行わない方針。 | 特になし（現状を維持）。 | |